【ポスター発表】

ポストモダン社会における「新しい貧困」

―「実存的貧困」概念の提唱―

○ 東北福祉大学　氏名　原田和広（会員番号9471）

キーワード：実存的貧困・社会的排除・ポストモダン

1．研 究 目 的

本研究はListerの「貧困の再定義」と称される業績を，現代社会に蔓延する社会病理を説明するために，更に新概念をもって再定義することが主たる目的である．

2．研究の視点および方法

本研究は，文献研究による（新概念の生成にあたっては，博士課程において質的・量的研究を行った．）．

3．倫理的配慮

本研究は，一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程及び研究倫理規程にもとづく研究ガイドラインに基づき行った（質的・量的研究部分は，東北福祉大学研究倫理審査委員会の許可を得た．）．

4．研 究 結 果

図1を参照.

5．考 察

Listerの貧困概念は，経済的貧困を中核に据えるという近代的貧困観（＝物質的困窮）に捉われており，ポストモダン的貧困（＝非物質的困窮）に対する理解が欠けている．

本研究は，現在世界中に広がっている新しいポストモダン的貧困に対して「実存的貧困」及び「絶望的貧困」という新概念を付与し，併せてそれらの貧困状態と不可分の関係にある「自傷的存在証明」が，いかなる心理的及び社会的メカニズムに基づいて発現するかを考察したものである．物質的困窮という近代的な尺度だけではもはや測り切れない，非物質的困窮が蔓延するポストモダン社会を生きることの苦しみを，実存主義哲学を基軸にしながら，改めて社会福祉学的な貧困論として考察した．

Listerは，「容認できない困窮」として，SenやSpickerらに倣い，飢餓や栄養失調等の物質的困窮を「貧困の車輪」の中心に配置し，その周囲に「関係的・象徴的貧困」を布置した．その際，従来社会福祉学が貧困と捉えてきた経済的貧困よりも，非物質的困窮である「関係的・象徴的貧困」の方がより一層人々をパワーレスな状態に陥らせると指摘した．しかし，Listerは，「関係的・象徴的貧困」を単独の貧困概念として措定することを避けた．近代的貧困観に捉われた彼女は，あくまで貧困の核としての物質的困窮に拘ったのである．

一方で，Baumanは，貧困は心理的・社会的なものでもあることを指摘している．著しい機会の剥奪や虐待，いじめ，性被害，DV等のトラウマティックなライフイベントは，容認できない非物質的困窮として，飢餓や栄養失調同様に，貧困の核足りえるというのが本研究の主張である．

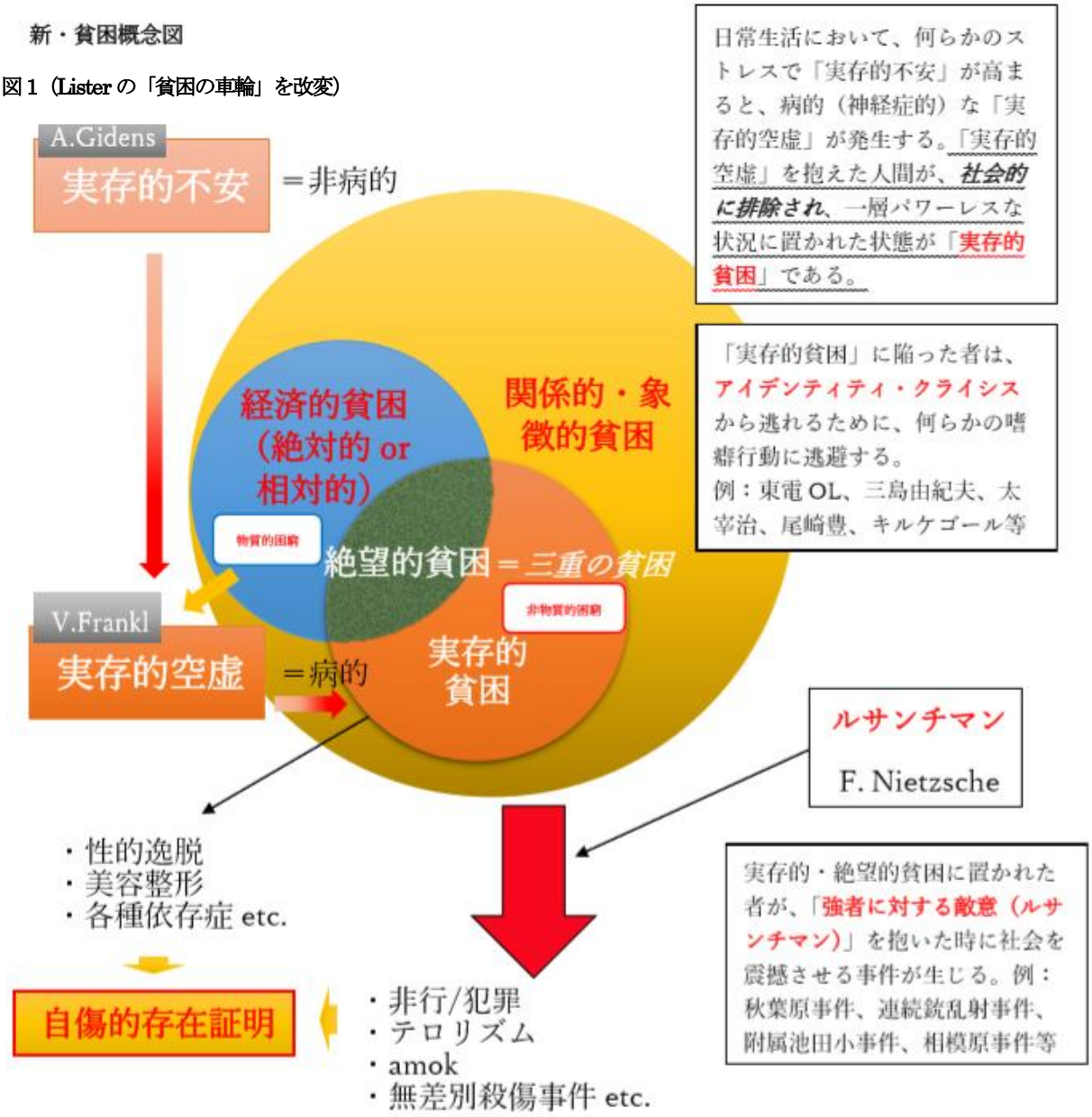
ポストモダン社会においては，Giddensが主張するように，全ての人々が常に「実存的不安」と呼ばれる漠然とした不安を抱えている．これ自体は決して病的ではないのであるが，そのような不安が亢進すると，Franklが指摘する「実存的空虚」という神経症水準の病的不安に至る．トラウマティックなライフイベントを経験した者は，往々にして内的作業モデルが欠損しているため，認知構造やパーソナリティに歪みが発生しているが，生育過程において何らかの形で社会的排除をも体験し，結果自らをスティグマタイズした時に，人々は本研究が「実存的貧困」と定義する状況に陥るのである．

畢竟，「『実存的貧困』とは，『内的作業モデル』の欠陥を抱え，非物質的な困窮状態を抱えた者が，ポストモダン社会特有の『実存的不安』を，何らかの要因で『実存的空虚』の段階にまで悪化させ，かつその生育歴において社会的排除に直面し，その過程でスティグマを自らに内面化した状態」と定義される．そして，その状態は，結果的に必ず以下の4つの心理・社会的欠損状態を引き起こしている．すなわち，①希望の喪失，②自我（アイデンティティ）の未形成，③低い自尊感情，④生きる意味の不明瞭性，である（この4項目は，性風俗産業に従事する60人の女性達に対して実施された筆者の質的・量的研究から導き出された．なお，同研究は東北福祉大学研究倫理審査委員会の許可を得ている．）．

「実存的貧困」状態は，Lister の「経済的貧困」や「関係的・象徴的貧困」の間に横断的に存在し，「経済的貧困」とも重なる場合は，「絶望的貧困」と定義される．三重の貧困状態は，考え得る全ての貧困が凝縮されたものであり，その苦悩は筆舌に尽くし難い．そのような状態にある者が，世の理不尽さを嘆き，自らの苦しみの責任を他者に転嫁させた時，そこに絶望と共に，ほの暗いルサンチマンが沸き上がる．その結果，彼らの自暴自棄な行動化が，種々の「自傷的存在証明」となって，社会の中で様々な形態で発露する訳だが，そのような激しいルサンチマンの自己破壊的な発現形式が，インドネシアにおける amok や米国の銃乱射事件, そしてオウム真理教やイスラム国に代表されるテロリズムへの共鳴の本質なのである．

新・貧困概念図

図 1（Lister の「貧困の車輪」を改変）



Frankl，V. E.（1988）The Will to Meaning: Foundations and Applications of Logotherapy，New American Library.（=2015，広岡義之訳『絶望から希望を導くために　ロゴセラピーの思想と実践』青土社.）

Giddens，A.（1990）The Consequences of Modernity, Stanford University Press.（=1993，松尾精文・小幡正敏訳『近代とはいかなる時代か?――モダニティの帰結』而立書房.）

Lister，R.（2004）Poverty，Polity.（=2011，松本伊智朗監訳『貧困とはなにか』明石書店.）

Bauman，Z.（1998）Work, Consumerism and the New Poor, Open University Press.（=2008，松本伊智朗監訳『新しい貧困 労働消費主義ニュープア』青土社.）